

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201443		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	静岡ケアハートガーデン グループホームふじみ	ユニット名	1F
所在地	静岡市駿河区有東3丁目8番25号		
自己評価作成日	平成28年2月5日	評価結果市町村受理日	平成28年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=2294201443-008&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成28年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活にメリハリをつけるため、季節の行事を大切に、外出支援を心がけております。出来る限り家庭で生活している時と同じように、その日の気分で出かける、メニューを決めるなどすることもあります。
また、利用者様個々のライフスタイルに合わせた生活を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して1年の事業所である。日々介護サービスを実施する中で、管理者がかつて培ってきた介護経験を活かした取り組みが随所に見られ、ホームの運営が順調に進められている。職員の育成と和を大切にされた運営は、退職者が出ていない事からも成果が認められる。また、各施策にあっても優れたものが多々見られる。例えば毎月イベントを企画して利用者が馴染みのある場所や祭りに出かける支援をしたり、また家族に対しては気配りのある「お便り」を毎月届ける等、家族との良好な関係を築くための努力がみられる。開設記念で企画した「ふじみ祭り」には地域住民の参加が多数あり、近隣との交流も芽生えてきており、地域密着型サービスの充実を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各フロアの目に付く場所に設置し、日頃から意識づけられるようにしている。 また、理念をもとに行動するように努めております。	企業理念を受けて、スタッフ会議等の場でホーム独自の年間目標とユニット毎の行動指針を決め、実践に努めている。	職員全員が理念を達成するために、日々の評価と反省を取り入れることも必要である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでお祭りなどのイベントを実施する際には直接顔を合わせて声を掛けるなどし、呼びかけを実施しています。 また、散歩などに出た際には挨拶をするなどし軽い会話を交わすよう努めております。	開設時に近隣へ事業所紹介のチラシを配ったり地域住民を巻き込んだイベントを実施するなど、着実に地域との関係を築いている。 町内会長の理解や散歩での挨拶により地域とのつきあいも良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現段階では、お祭りや見学の場を利用し、日頃の運営を掲示したものを観ていただき、説明を行う。また、相談等にも応えられるように努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回と定期的実施しており、ホームの運営に関わる事項についての報告を行い、ご意見を頂いた面に関しては良いとされたことについては継続していけるよう努めさせていただいております。	地域包括支援センター職員や町内会長・家族・職員等により2か月ごとに開催されている。会議は双方向的な会議内容になっており、出された意見や要望等はサービス向上に活かしている。	更に充実したサービスを実現できるよう、民生委員や介護相談員等幅広い人たちの参加も視野に入れてみたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方を運営推進会議での現状報告、挨拶周りでのホーム案内などでホームの取り組みを伝えるよう努めており、必要に応じて報告書などを届けるなどし、関係を築いていくよう努力しております。	市の関係する担当者とは、機に応じて報告や連絡・相談等を密に行うよう努めている。特に報告書は直接届けるなどして、行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業開始前に身体拘束についての研修を実施し、スタッフ全員が身体拘束をしないケアを理解し、実施しております。 玄関の鍵については日中は空いており、自由に入出入りが出来る環境となっております。	入居時の研修や会議の席、あるいは日々の業務の中において身体拘束をしないケアについてお互いに注意し合っている。見守りと玄関の施錠をしないケアを含めて、身体拘束ゼロに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業開始前に虐待についての研修を実施しております。 また、日頃から話し合いを行いケアにあたっており、虐待がおこならないよう職員同士が声を掛け合い、連絡・報告を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業開始前に権利擁護について研修を実施することで、権利擁護の必要性を確認しております。 また、権利擁護を必要とする方に関しては活用できるよう、支援をおこなっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については十分な時間を使い説明を行うよう努めております。 また、説明の最中に内容についての質問事項の有無などを確認行うようにしており、その後も必要に応じ返答を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで出たご家族様の意見を上長・職員・地域包括などに報告するなどし、日頃のケアに反映させ、サービスの向上に努めております。	運営推進会議や面会時・電話等において家族から得た意見や要望は運営に反映させている。また家族との関係を密にするため、毎月発行のホーム便りには利用者の詳細な暮らしぶりを紹介している。	広く運営に対する意見や要望等を求める手段として、玄関先に「ご意見箱」の設置を望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者による年に1回の面談、管理者による年2回の面談を実施しております。 また、日頃より職員の提案・意見を取り入れ改善する(可能な限り)などと反映しております。	会議や日常業務での職員との対話の他、個別面談で出された意見や要望・提案等のうち、実現可能なものについては事業運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代用者による面談が年1回実施され、その他にホーム内で面談を実施するなどを行い、現状の把握などを行うよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修要項を職員に回覧し、また、現状で取得できる資格については積極的に取得していくよう声掛けを行い、その意思を確認しております。また経験のある職員とペアを組むなど、取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・ユニットリーダー・リーダー候補は他拠点の方々と研修に参加することで情報交換の場を提供していただいております。 また近隣の施設の方をお祭りに招くなど行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りその方と接する時間を作り、会話の中で悩み頃などを把握しております。また、会話の中から知り得た情報を記録に残し、スタッフ全員が共有できるようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様・本人様ともコミュニケーションを出来る限りとり、信頼関係を作るように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1日の生活の様子を確認し、その方の状態を見極めるように努めております。また、必要としている支援を即座に対応できるよう、スタッフ同士話し合いを行うなどしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・散歩や買い物などの普通の生活が出来るよう努めております。 また個々に出来る事、やりたい事、やりたくない事を把握し、その方に合わせた支援に努めております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度現状を伝えるなどし、信頼関係が気づけるよう努めており、話しの内容などが一方的にならないよう、ご家族様の意見、ご要望に耳を傾けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が、ご家族やお知り合いの方に書いた手紙(葉書)を出すお手伝いをさせていただいたり、ご友人への電話を掛け、ご本人様に回すなど、今までの関係を保てるように努めております。	利用者が馴染んできた場所や昔懐かしい祭り等に出掛ける企画や、知人や友人等への手紙や電話などにより、関係が途切れないような支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士、同じテーブルに着いていただいたり、苦手な方とは距離を置けるよう配慮を行っております。 また、職員が会話に入ることにより人間関係が円滑に行えるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街で顔を合わせた時は挨拶を交わすなど、コミュニケーションをとるよう努めております。 また、大きなイベントの際にはお声がけなどを行うよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望を把握するため、出来る限り会話を行うよう努めております。また、困難な方に関してはご家族様に本人様の過去などを確認しながら把握に努めております。	利用者への寄り添いを大切にし、その中で思いや希望を汲み取っている。これまでの暮らし方や思いが伝わりにくい利用者には、様々なアプローチを試み、その中から興味を示したものを実践して取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の状況などをご家族様や、本人様との会話の中から拾い出し、情報を共有し、馴染みのある暮らしを提供しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や日常の食事量・水分量のチェックを行うとともに、顔色などの変化に気を付けるよう努めております。また、今まで行ってきたことを実際にやっていただくことで能力の把握を行っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度カンファレンスを実施し、利用者様一人ひとりのケアプランについて話し合いを行い、話し合い決定した支援を実践しております。また、必要に応じてその場のスタッフで話し合いを行っております。	利用者の希望や来訪する家族からの情報を基に、定期的に見直している。来訪の難しい家族には電話やホーム便りで健康状態や日々の暮らしの様子を知らせ、その上で介護計画の見直しへの意見を聞くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙や業務日誌に日中・夜間の様子や気が付いた事、ご家族様からの連絡事項を記入し、情報を共有しております。 また、モニタリング時には記録を活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の状況によっては、事業所が代わりに申請書類を提出する、病院受診を行うなど、その時に必要なサービスを柔軟に行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔なじみの近所の八百屋など、買い物に利用しております。 また近所の美容院を利用するなどしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の状態、ご家族様の希望などにより入所以前からのかかりつけ医を継続している場合や、週1回往診をしてくださる事業所のかかりつけ医を希望されるなど、その方に合った選択に努めております。	かかりつけ医への受診は家族対応をお願いしている。定期的に事業所提携医の往診があり、健康診断も実施している。週に2回、看護師が利用者の体調を確認するなど、健康管理体制は万全である。	家族宛の便りで、体温や血圧・体重・前月体重との比較等を毎月報告している。さらに内服薬や往診時の報告があれば家族の安心に繋がることから、記載等をお願いしたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回出勤した際に、健康状態の確認を行っていただいております。 また気になることや、気づいたことをその都度申し送り、情報を共有することで、必要に応じて受診をするなど行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には状態の確認をご家族様に行うなどし、必要に応じて病院の退院支援担当の方との連絡調整を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、どこまでサービスの提供が出来るか、どのような条件であれば事業所で看取ることが可能であるのかを必要に応じて伝えるようにしております。	入居時に重度化した場合の指針を説明し、同意を貰っている。現状は利用者等の健康状態も良いことから、具体的な支援の説明は徐々に行なっていく。職員の対応や医療連携については、今後の課題として話し合いや研修を重ねることで不安を解消していく考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業開始前の研修で近似の対応方法についての研修を行っております。 また消防署による訓練ではAEDの使用方法や、救急搬送の際に必要な確認事項や手順を指導していただいております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回消防署より消防士を招き、災害時の搬送方法・消火訓練などを行っております。 また利用者様の体力・特徴などを加味しての対策を話し合ったりしております。	通報訓練や担架・毛布での搬送・AEDの使い方などの実践的な訓練を行ない、緊急時に備えている。避難用ヘルメットはすぐ装着できる場所にあり、災害用備品は津波の浸水被害を想定し2階に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、排泄などの声掛けは大きな声で行わないようにしております。また、居室は個人様の「家」になるため、勝手に出入せず、本人様に声を掛けるよう努めております。	法人全体で個人情報管理を徹底し、厳重に取り扱っている。呼称は馴れ馴れしい呼び方を禁止しているが、利用者本人や家族が希望する親しみを込めた呼び方の場合もあり、利用者との距離感を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとり、本人様が何を考えて何を思っているのかを会話によって引き出せるようにしております。また自己決定できるよう会話を投げかけ、選択していただくよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方も持っている得意分野を日常で活かし、本人様のペースを尊重しております。また、その日の本人様の気分を尊重し、無理強いせず、希望を出来る限り聞き入れるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みの色・服装を尊重し、お化粧が習慣づいている方にはお化粧を勧めるなどしております。また、天候や気候に合わせた服装を心がけ、本人様に声掛けを行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの食事をメニューに取り入れ、外食の場なども提供しております。また利用者様とメニューを決めたり、料理の下準備や食器の後片付けなどを手伝っていただいております。	利用者と職員とで食事の準備をし、共に同じ食事を楽しむ姿はまるで家族のような光景であった。事業所に屋台ラーメンや養護学校生と高校生が授業の一環で作った野菜販売を招く等、食の楽しみが広がる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は毎日確認を行い、水分の摂取量が足りない方に関しては、好きな飲み物提供し、またお粥を提供するなどし水分摂取量を確保することに努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせ、毎食後口腔ケアを実施し、口の体操を取り入れております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の能力に合わせた下着を使用するよう支援を行っております。また本人様の希望を尊重し夜間安心して休めるための、下着を選択することもあります。食事前後には声掛けを実施、トイレを促してまいります。	入居時にはおむつ使用であった利用者が、職員の排泄支援により紙パンツで生活できるようになった。排泄記録や利用者の様子を窺い、失敗に繋がらないような誘導を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて医師に相談し、薬を処方していただくこともありますが、水分が足りないが、飲水することが困難な方の場合はお粥などを利用し、出来る限り水分を摂取していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴したいという希望のある方には、出来る限り毎日の入浴を実施し、入浴時間かも本人様の体調・タイミングなどを優先し、入浴を促しております。また、入浴剤を利用しリラックスしていただいております。	県内のグループホームで初めてリフト浴を導入した。座ったまま入浴が可能な為、健康状態に左右されず浴槽に浸かれる。トイレと浴室が隣接しており、入浴拒否時はトイレへ行きつつ浴室への誘導も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の体調や体力に合わせ休息の時間を検討し、本人様が休みたいと言われる時には休んでいただいております。居室の施設をした方は施設をしていただいております、エアコンを使用し適温にしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認しながら、薬のセットを行っており、その際に薬の作用などを一緒に確認しております。また、薬による変化などがみられたときには医師や看護師に相談しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の得意な事を活かし、食器拭きを行う方・作品作りを行う方など役割を持っています。また気分転換のため、玄関先のポーチに出るの日光浴や散歩など実施しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い出しや・ドライブ、近所への散歩に外食等、戸外に出かける機会を出来る限り支援しております。また、ご家族様の協力を得て外泊や、外出などしていただくこともございます。	好天候で利用者の体調が良い日には、頻りに散歩や買い物・ドライブに出掛けている。近所の八百屋やスーパーにも車椅子で散歩がてら出掛け、利用者の気分転換になっている。外出イベントも多様で、職員のフットワークの良さが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当社の方針として現金は預からないことになっておりますが、お金を持つことの大切さは職員も理解しており、本人様とご家族様の取決めにより、お金を持っている方に関しては外出時に使えるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様宛の葉書を書かれる方には一緒にポストまで行ったり、郵便局で葉書をかいたりとしており、また友人に電話を掛けたいと言われる方に関してはこちらでダイヤルをしたのちに渡すなどしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで自分たちが作り上げた作品をリビング・廊下に展示し、明るい空間作りを心がけております。 室内は空調で適切な温度を保っております。	利用者は日中居室よりリビングで過ごす事が多く、居心地の良さが窺える。利用者と職員と共に作る季節のディスプレイは大変華やかであった。利用者は屋外を好む為、急激な温度変化がないよう室温設定にも常時気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のペースが同じ方、よくお話をされる気の合う方を同じテーブル配置にするなど、過ごしやすい空間づくりに努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置かれる家具は出来る限り本人様のご自宅ですわられていた物を持ってきていただいております。また写真を飾るなどし、本人様が過ごしやすい空間を提供しております。	カーテンとクローゼット以外は利用者の馴染みのもので環境作りをしている。ソファや仏壇を持ち込む利用者もある。畳を敷くことも可能で、現在畳で生活をしている利用者もいることから自由度の高さが窺える。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掴みやすい位置に手すりを設置し、浴室はリフト浴を設置しております。その方の能力に合わせてエレベーターを使用する、体調に合わせてリフト浴を使用するなどの工夫をしております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201443		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	静岡ケアハートガーデン グループホームふじみ	ユニット名	2F
所在地	静岡市駿河区有東3丁目8番25号		
自己評価作成日	平成28年1月28日	評価結果市町村受理日	平成28年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2294201443-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活にメリハリをつけるため、季節の行事を大切に、外出支援を心がけております。出来る限り家庭で生活している時と同じように、その日の気分で作る、メニューを決めるなどすることもあります。
また、利用者様個々のライフスタイルに合わせた生活を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各フロアの目に付く場所に設置し、日頃から意識づけられるようにしております。また、理念をもとに行動するように努めております。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでお祭りなどのイベントを実施する際には直接顔を合わせて声を掛けるなどし、呼びかけを実施しております。また、散歩などに出た際には挨拶をするなどし軽い会話を交わすよう努めております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現段階では、お祭りや見学の場を利用し、日頃の運営を掲示したものを観ていただき、説明を行う。また、相談等にも応えられるように努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回と定期的実施しており、ホームの運営に関わる事項についての報告を行い、ご意見を頂いた内容に関しては良いとされたことについては継続していけるよう努めさせていただいております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方を運営推進会議での現状報告、挨拶周りでのホーム案内などでホームの取り組みを伝えるよう努めており、必要に応じて報告書などを届けるなどし、関係を築いていくよう努力しております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業開始前に身体拘束についての研修を実施し、スタッフ全員が身体拘束をしないケアを理解し、実施しております。玄関の鍵については日中は空いており、自由に出入りが出来る環境となっております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業開始前に虐待についての研修を実施しております。また、日頃から話し合いを行いケアにあたっており、虐待がおこならないよう職員同士が声を掛け合い、連絡・報告を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業開始前に権利擁護について研修を実施することで、権利擁護の必要性を確認しております。 また、権利擁護を必要とする方に関しては活用できるよう、支援をおこなっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については十分な時間を使い説明を行うよう努めております。 また、説明の最中に内容についての質問事項の有無などを確認行うようにしており、その後も必要に応じ返答を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで出たご家族様の意見を上長・職員・地域包括などに報告するなどし、日頃のケアに反映させ、サービスの向上に努めております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者による年に1回の面談、管理者による年2回の面談を実施しております。 また、日頃より職員の提案・意見を取り入れ改善する(可能な限り)などと反映しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代用者による面談が年1回実施され、その他にホーム内で面談を実施するなどを行い、現状の把握などを行うよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修要項を職員に回覧し、また、現状で取得できる資格については積極的に取得していくよう声掛けを行い、その意思を確認しております。また経験のある職員とペアを組むなど、取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・ユニットリーダー・リーダー候補は他拠点の方々と研修に参加することで情報交換の場を提供していただいております。 また近隣の施設の方をお祭りに招くなど行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはコミュニケーションを積極的にとることで本人様の意見を聴き、日常生活の中から見出せるよう努めております。また、相性をみて組み合わせを変えるなど、その都度調節を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様より、今までの生活状況を確認し、必要に応じて相談することにより、関係づくりを行っております。 また月に1度お手紙やホーム便りを発行しご家族様のもとに届けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様よりお話を聞き、可能であれば本人様からも話を聞くなどし、必要な支援を行っております。 必要とあれば、その都度サービスの内容を変更し支援させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の気持ちやライフスタイルを出来る限り尊重し、本人様の生活スタイルに寄り添う支援を行っております。 また、外出など本人様と一緒に楽しむことを心がけ支援しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはコミュニケーションを図り、情報を共有しております。 また、イベントなどには参加していただけるようお知らせをさせていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の中で馴染みの深い床屋など出来る限り継続していけるよう支援をしていく方向で考えております。 ご友人などの面会に関しては制限を設けずご自由に来訪していただいております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で作業をしたり、散歩や買い物に出かけるなどし、関わりが持てる場を提供するよう努めております。 また、相性などを考え席の配置などをその都度検討し変更しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街で顔を合わせた時は挨拶を交わすなど、コミュニケーションをとるよう努めております。 また、大きなイベントの際にはお声がけなどを行うよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の生活スタイルの継続や、意向を会話の中より拾いだし、また自身からの訴えや、行動による把握につとめ、個人個人のペースで生活できるよう支援しております。	利用者への寄り添いを大切に、その中で思いや希望を汲み取っている。これまでの暮らし方や思いが伝わりにくい利用者には、様々なアプローチを試み、その中から興味を示したものを実践して取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の状況などをご家族様や、本人様との会話の中から拾い出し、情報を共有し、馴染みのある暮らし(就寝時間や晩酌なそ)を提供しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の日常や有する能力を把握するために、アセスメントを行いました、その都度申し送りを行うことにより、現状の把握を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでは本人様がより良く暮らすための課題を本人様やご家族様のご意見を踏まえ、話し合いを行っております。それぞれの意見の中なら優先順位の高い物をプランに掲載しております。	利用者の希望や来訪する家族からの情報を基に、定期的に見直している。来訪の難しい家族には、電話やホーム便りで健康状態や日々の暮らしの様子を知らせ、その上で介護計画の見直しへの意見を聞くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそって日常の様子を記録し、内容を確認した者は記録に確認印(押印)を行っております。また、日々の記録を元にモニタリングを行い実践の確認、見直しに役立てております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の状況によっては、事業所が代わりに申請書類を提出する、病院受診を行うなど、その時に必要なサービスを柔軟に行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔馴染みの近所の八百屋などを買い物に利用しております。 また、バス等の社会資源を利用し、馴染みの場所に行けるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の状態、ご家族様の希望などにより入所以前からのかかりつけ医を継続している場合や、週1回往診をしてくださる事業所のかかりつけ医を希望されるなど、その方に合った選択に努めております。	かかりつけ医への受診は家族対応をお願いしている。定期的に事業所提携医の往診があり、健康診断も実施している。看護師が週2回、利用者の体調を確認するなど、健康管理体制は万全である。	家族宛の便りに、体温や血圧・体重・前月体重との比較などを毎月報告している。さらに内服薬や往診時の報告があれば家族の安心に繋がることから、記載等をお願いしたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回出勤した際に、健康状態の確認を行っていただいております。 また気になることや、気づいたことをその都度申し送り、情報を共有することで、必要に応じて受診をするなど行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には状態の確認をご家族様に行うなどし、必要に応じて病院の退院支援担当の方との連絡調整を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、どこまでサービスの提供が出来るか、どのような条件であれば事業所で看取ることが可能であるのかを必要に応じて伝えるようにしております。	入居の際に重度化した場合の指針を説明し、同意をもらっている。現状は利用者等の健康状態もよいことから、具体的な支援の説明は徐々に行なっていく。職員の対応や医療連携については今後の課題として話し合いや研修を重ねることで不安を解消していく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業開始前の研修で近似の対応方法についての研修を行っております。 また消防署による訓練ではAEDの使用方法や、救急搬送の際に必要な確認事項や手順を指導していただいております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回消防署より消防士を招き、災害時の搬送方法・消火訓練などを行っております。 また利用者様の体力・特徴などを加味しての対策を話し合ったりしております。	通報訓練や担架・毛布での搬送・AEDの使い方などの実践的な訓練を行ない、緊急時に備えている。避難用ヘルメットはすぐ装着できる場所にあり、災害用備品は津波の浸水被害を想定し2階に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人格を尊重し、個性として活かせるよう努めております。また、その方に合わせた言葉を選び、声をかけるなどし羞恥心を損ねないよう努めております。	法人全体で個人情報管理を徹底し、厳重に取り扱っている。呼称は馴れ馴れしい呼び方を禁止しているが、利用者本人や家族が希望する親しみを込めた呼び方の場合もあり、利用者との距離感を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2択の選択方法で質問をしたり、食事のメニューなど広告を利用しながら話をすることで、自己決定を促し、また日頃より利用者様の声に耳を傾け、声を掛けやすい環境づくりに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方も持っている得意分野を日常で活かし、本人様のペースを尊重しております。また、その日の本人様の気分を尊重し、無理強いせず、希望を出来る限り聞き入れるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の服や色の好みなどを基調とし、外出時などの服装は特に気を付け身だしなみを整えております。毎朝の整容、定期的な散髪を提供しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの食事をメニューに取り入れ、外食の場なども提供しております。また利用者様とメニューを決めたり、料理の下準備や食器の後片付けなどを手伝っていただいております。	利用者と職員とで食事の準備をし、共に同じ食事を楽しむ姿は家族さながらの風景であった。屋台ラーメンや養護学校・高校生が授業の一環で作った野菜販売を事業所で招き、食の楽しみが広がる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量の確認を行うと共に、バランスが保たれているかどうか、また水分量の確認を行っております。必要に応じてその方のお好きな物を提供するよう努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しております。その方の能力を活かし、出来る事はご自身で行っていただき、出来ない部分(方)は職員がお手伝いをさせていただき、最後に口腔内の確認を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのサインを共有・時間ごとのトイレ誘導を行っております。 自立している方はご本人様のペースでトイレにいたり、見守りを行っております。	入居時にはおむつ使用であった利用者が、職員の排泄支援により紙パンツで生活できるようになった。排泄記録や利用者の様子を窺い、失敗に繋がらないよう誘導を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方が多いため、オリゴ糖を調理に使用する、繊維質の物をすりおろして使用するなど行い、散歩やホーム内を歩くよう個々の個性を活かして実施しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日などは決まっておらず、基本的に11:00~16:00の間で本人様に声をかけ、気持ち前向きな時に入浴を行っております。また、入浴剤などを利用し気分よく入浴できるよう努めております。	県内のグループホームで初めてリフト浴を導入した。座ったまま入浴が可能な為、健康状態に左右されず浴槽に浸かれる。トイレと浴室が隣接しており、入浴拒否時はトイレへ行きつつ浴室への誘導も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の生活状況・能力などを踏まえ、畳での生活、ベッドの生活など本人様が安心して休める体制を整えております。部屋の室温もそれぞれ休息しやすい温度に調整させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人様が服用している薬を管理するうえで、お薬の説明書を確認しながら行っております。服薬時には飲み込むまで確認を行い、その方に合わせた服薬方法を工夫しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の個性を活かし、掃除、食事の下準備、買い物、洗濯物干しなどそれぞれの役割を支援するよう努めております。また嗜好品を取り入れ、外に出るなど気分転換が出来るよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望を達成できるように変え、ドライブや買い物など外出支援を行っております。支店の車を借りるなどし、清水や動物園などイベントを実施しており、希望を叶えられるようスケジュールの調整などに努めております。	天候や利用者の体調が良い日には、頻繁に散歩や買い物・ドライブに出掛けている。近所の八百屋やスーパーにも車いすで散歩がてら出掛け、利用者の気分転換になっている。外出イベントも多様で、職員のフットワークの良さが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当社の方針として現金は預からないことになっておりますが、お金を持つことの大切さは職員も理解しており、本人様とご家族様の取決めにより、お金を持っている方に関しては外出時に使えるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたいと言われた際には、月次報告とは別に手紙を書いていたき一緒にご家族様に郵送しております。ご自分で出来ない方に関しては代筆をしたり、代わりにご家族様へ連絡を行ったりしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレに関しては外部からの視線が気にならないようにカーテンを設置したり、居間や廊下などの空間に関しては季節の行事などに合わせた飾りつけを行っております。また、利用者様の作品を展示しております。	利用者は自室にいるよりリビングで過ごす事が多く、居心地の良さが窺える。利用者と職員と共に作る季節のディスプレイは大変華やかであった。屋外を好む利用者の為、急激な温度変化がないよう室温設定にも常時気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルとは別に一人掛けようのソファ・2人掛けようのソファをリビングに用意しており、思い思いの場所で過ごすことができるよう工夫させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様のご自宅で使われていた物をホームに持ってきていただいております。殺風景にならないよう、写真を飾るなどして温かみのある居室を演出しております。	カーテンとクローゼット以外は利用者の馴染みのもので環境作りをしている。ソファや仏壇を持ち込む利用者もある。畳を敷くことも可能で、現在畳で生活をしている利用者もいることから自由度の高さが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掴みやすい位置に手すりを設置し、浴室はリフト浴を設置しております。その方の能力に合わせてエレベーターを使用する、体調に合わせてリフト浴を使用するなどの工夫をしております。		